

経営比較分析表（令和6年度決算）

静岡県 地方独立行政法人静岡市立静岡病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	56,199	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
500	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	506
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
435	-	435

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

静岡医療圏の基幹病院として、急性期および高度急性期医療を担っている。特に心臓病治療の実績は高く、先進的ながん治療など、高度で良質な医療の提供に努めている。また、断らない救急医療、質の高い高度急性期・急性期医療の提供を通じ、より多くの急性期患者、新規患者の受入を進めるとともに、地域の医療機関や介護施設、異なる機能を有する病院・病床などとの連携や、紹介・逆紹介などを通じて、地域完結型医療の実現に寄与している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常損失は、762百万円を計上し、経常収支比率は96.9%となった。
医療収支比率は、医療収益が過去最高額となった一方で、給与費が増加したことにより、前年度を下回った。
病床利用率は、平均在院日数が0.2日減となり、延入院患者数が918人減少したため、前年度を下回った。
入院1人1日当たり収益は、在院日数を短縮したこと等により増加した。
外来患者1人1日当たり収益、材料費対医療収益比率は、材料の価格上昇があったものの、高額医薬品の使用減により前年度のほぼ横ばいであった。
職員給与費対医療収益比率は、給与費の増加に伴い、前年度を上回った。

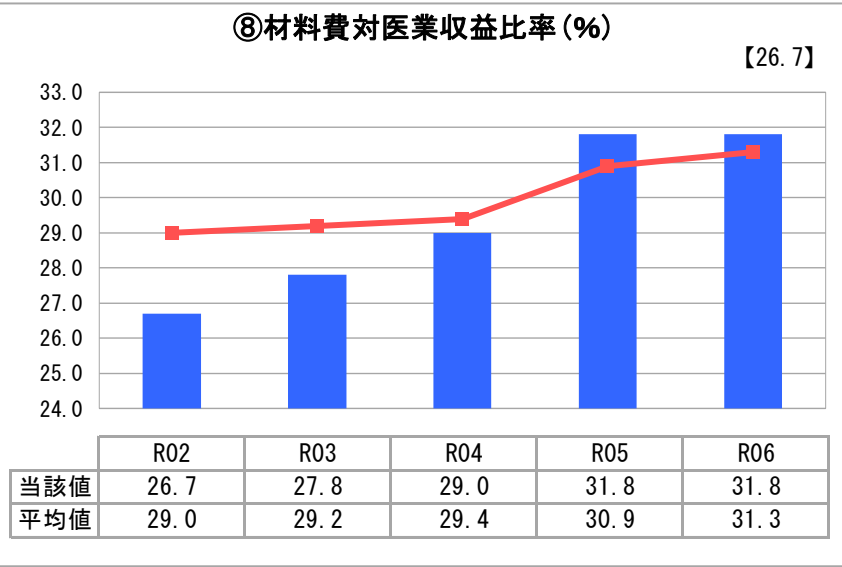
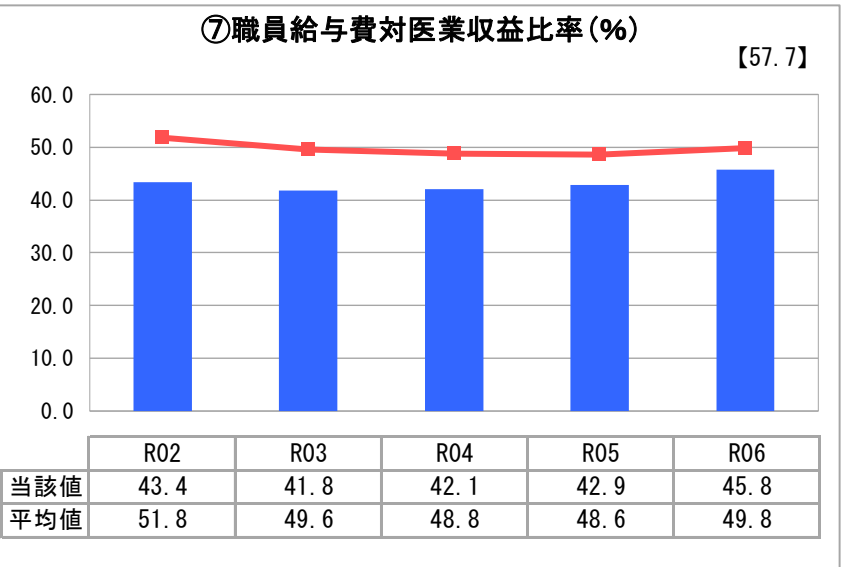
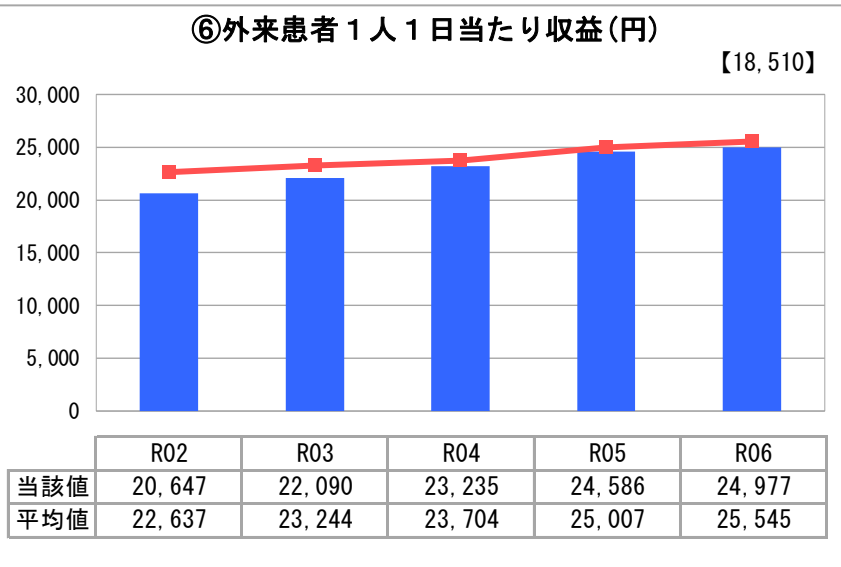
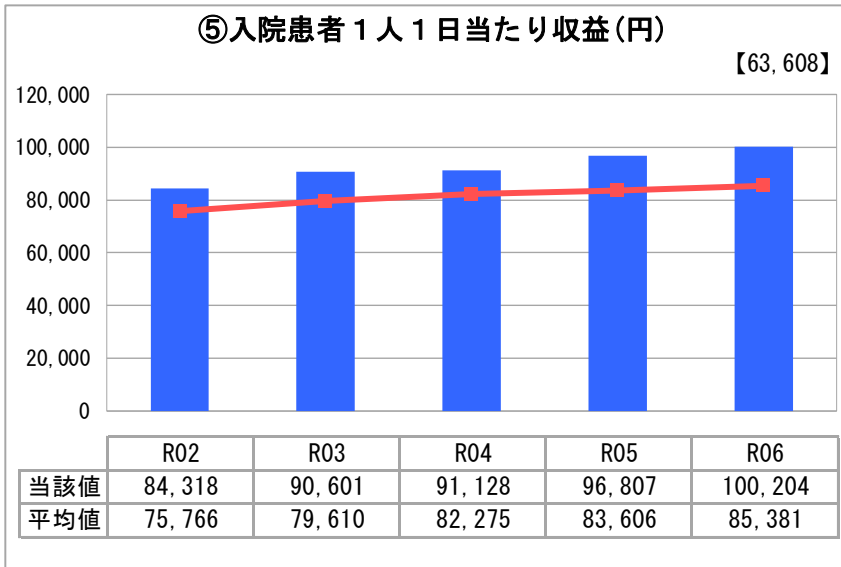
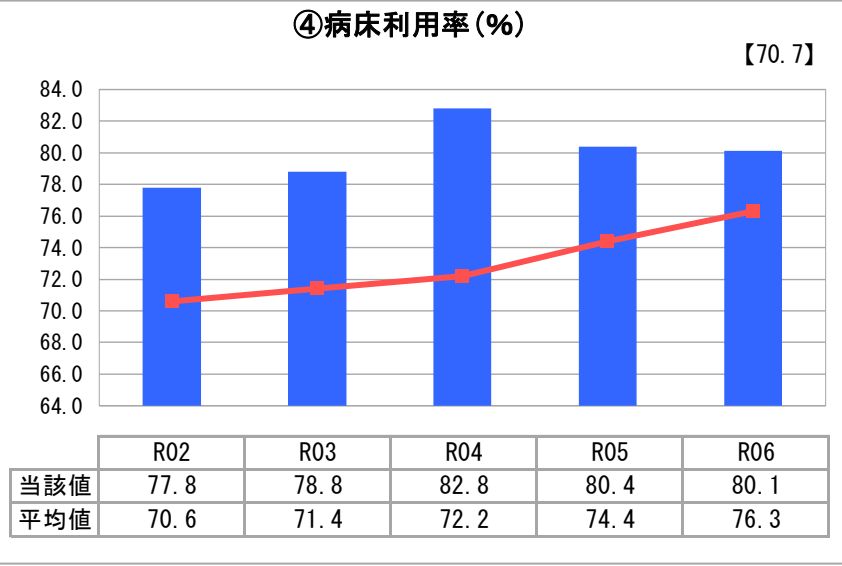
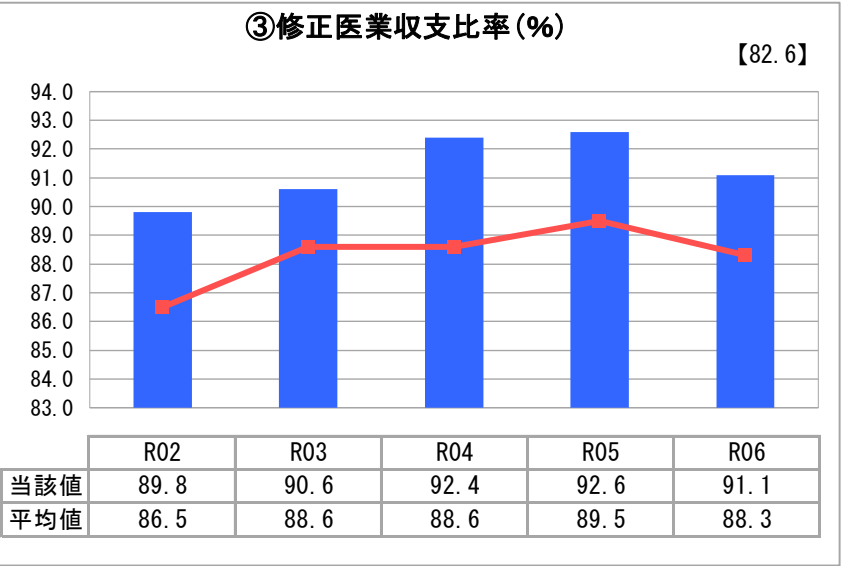
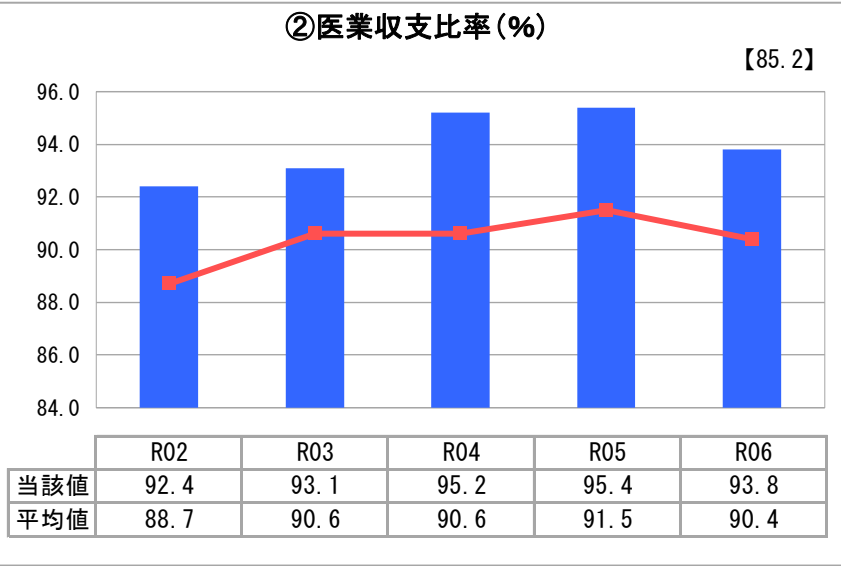
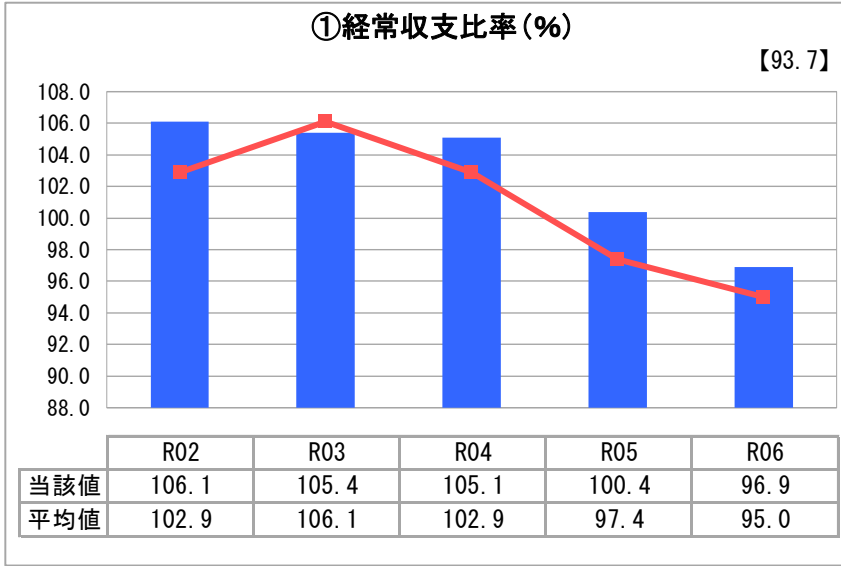
2. 老朽化の状況について

償却率については、平成28年度の地税法移行時の開始貸借対照表作成に当たり、固定資産を再評価し、耐用年数が経過したもの及び取得価格から減価償却累計額を差し引いて10万円以下となるものは固定資産に計上しなかったため、有形固定資産減価償却率及び器械備品償却率は全国平均値及び類似病院平均値を下回っているという背景がある。
しかし、償却対象資産の減価償却が進むにつれて、有形固定資産減価償却率、器械備品償却率は、上昇傾向にある。
1床当たり有形固定資産については、取得価額に対し、除却した有形固定資産が僅少だったことから前年度対比で上昇した。

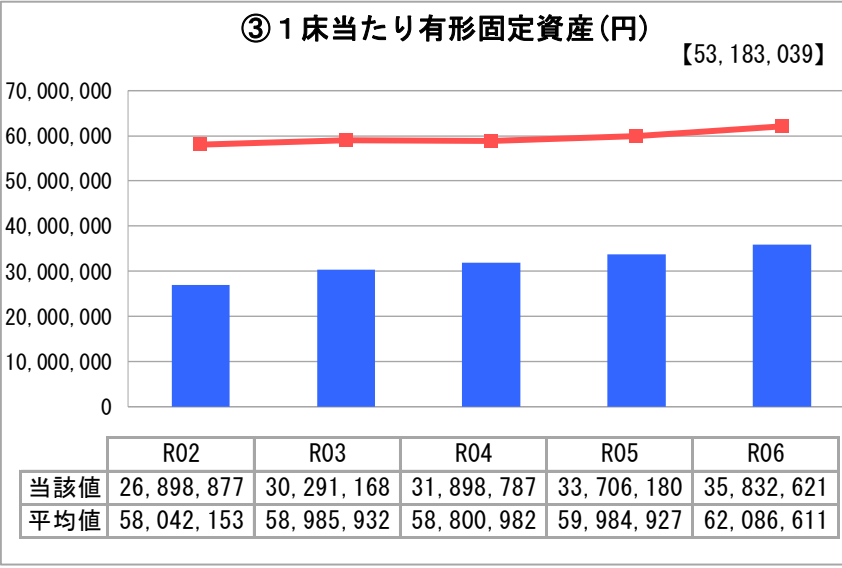
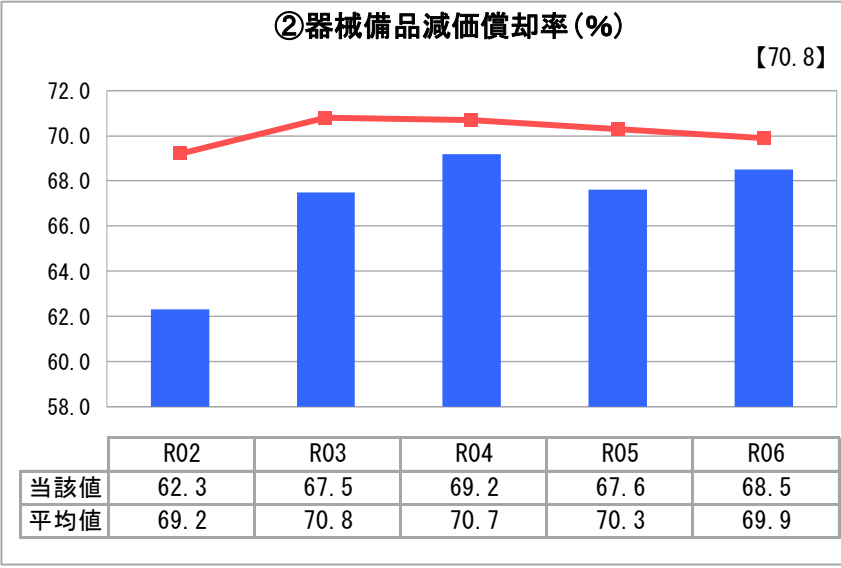
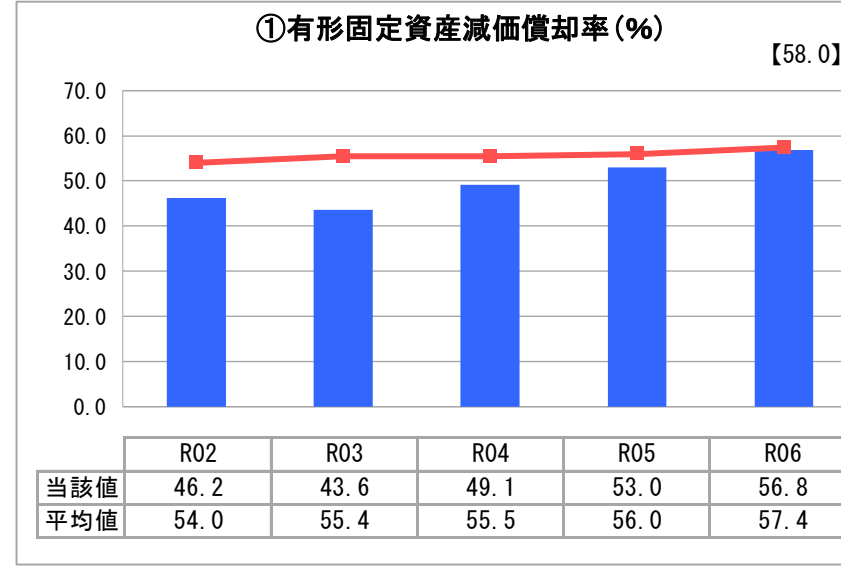
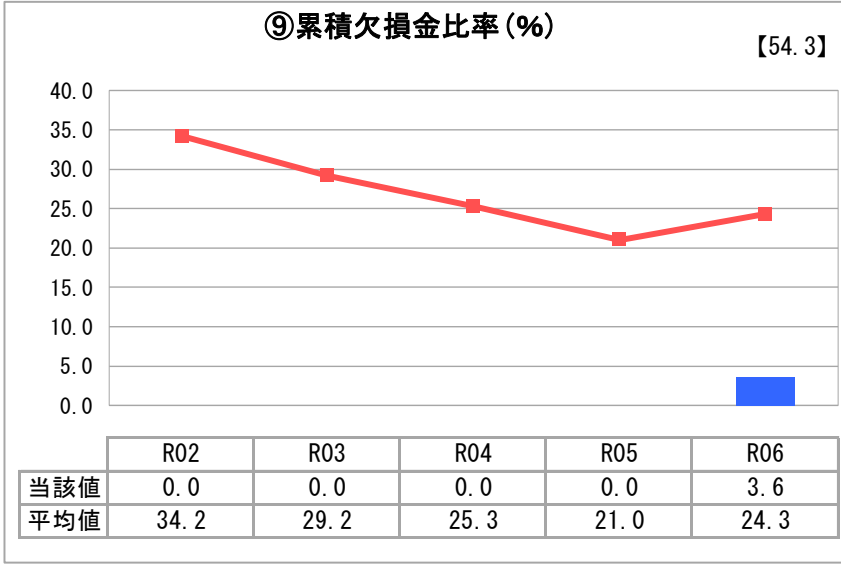
全体総括

令和6年度決算は、給与改定に伴う給与費の増などにより、前年度比642百万円の費用増となったことに加え、新型コロナウイルス感染症の補助金が終了となったことにより、赤字となった。
新患者数はコロナ禍前の水準への回復傾向が見られるものの、給与費等の義務的経費の増や物価高騰に伴う光熱費等経費の高止りの影響を受けるなど、今後も収支面では厳しい状況が見込まれる。
当院は静岡市の基幹病院として、高度かつ良質な医療サービスを提供する責務を担っていることから、第3期中期計画の実現に向けて、引き続き、必要となる人的投資や設備投資を行っていく。また、最小の費用で最大の効果が発揮できるよう努める。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。